「少年神」信仰の古今東西
――メディアのなかの「聖徳太子」

2021年5月23日（日）
於：奈良県立図書情報館
Ⓒ佐伯順子（同志社大学教授）
内容の無断転用はなさらないでくださいませ

「聖徳太子」という存在と社会

比較文化史、メディア学、ジェンダー論の学際研究の視点から

１．現代社会に生きる聖徳太子像～その多様なメディア展開
２．成人の太子像と少年の太子像～仏教的文脈と国際比較
３．男性向けメディアから女性向けメディアへ
４．まとめ～聖徳太子が伝える現代社会へのメッセージ

まとめ

１．「聖徳太子」像の現代社会における多様な展開：信仰空間、言語、視聴覚情報による多様なメディア展開（現代社会の多様な生活シーンに溶け込む太子像）：通貨、出版物、テレビドラマ、地名、駅名、行政、商業、オンライン情報（各地のお寺さんのHP、行事情報、観光情報図像、立像、二次元、三次元…）
２．成人の太子像と少年の太子像
→仏教的文脈＋「少年」をめぐる世界的イマジネーションの共通性
３．女性向けメディアにおける歴史の“再解釈”と“二次創作”
４．まとめ～聖徳太子が伝える現代社会へのメッセージ

→「聖徳太子」研究の学際性～歴史、宗教、美術、民俗、建築、メディア、文学……

関東の太子堂と太子像例（東京都世田谷区円泉寺、真言宗豊山派）

2021年5月14日佐伯撮影（3枚とも）

地名、学校名～社会的認知度

2021年5月14日、佐伯撮影（2枚とも）

新聞地域情報　THE SANKEI NEWSより引（下線部引用者）
https://www.sankei.com/life/news/181125/lif1811250033-n2.html

同区太子堂３丁目にある円泉寺は文禄４（１５９５）年、大和の久米寺（奈良県橿原市）から布教にきていた賢恵（けんけい）和尚によって創設された。賢恵和尚は聖徳太子像と十一面観音像を背負って関東を下っていた途中、この地に来て一泊した際、夢に聖徳太子が現れたという。

- 「此地に霊地あり。円泉ケ丘という。恒（つね）に霊泉湧き出ず。永く之に安住せん。汝も共に止（とどま）るべし」
- このお告げを受けて賢恵和尚が本堂と聖徳太子堂を建てたのが、円泉寺の由来とされている。今は泉は湧き出ていないが、名前の通り、この辺りはかつて霊泉の湧き出る清浄な地だった。また、太子像は難病を治す霊験があるといわれ、参詣する人でにぎわったとされる。

【東京・地名研究室】太子堂（世田谷区）　聖徳太子由来の学びの地

- 2018.11.25 15:07ライフくらし(下線部引用者)

縄文・弥生時代から人々の生活が営まれていた地（円泉寺ＨＰより）

職能神としての全国展開

- 講集団

和歌森（241，245）
- タイシコウ、ダイシコウ
- 「原始的」「季節の変り目」
- 弘法大師の講
- 職人の太子講

2021年5月14日佐伯撮影

→辻泰明執筆・NHK「聖徳太子」プロジェクト（2001）（『大型ドキュメント聖徳太子信仰への旅』2001年11月4日OA）

駅名・地名（身近な環境にも）

- 太子橋今市（大阪メトロ今里筋線）
- 西太子堂駅（東急電鉄世田谷線）
- バス停太子堂（小田急バス）

2021年5月14日、佐伯撮影

ドラマ、映像

池端俊策脚本『聖徳太子』（NHK大阪新放送会館完成記念番組2001年11月10日）

太子の人物造型：平和主義、夫婦愛、国際交流、韓国語＋日本語

仏教、合議を重視、「和」
←→馬子：野心家、権力志向、肉食
（ネガティブ描写）

推古天皇（額田部皇女）の存在感
女性の「霊力」（高度な政治的意思決定への参画、戦場への同行）

参）有力な王子たる厩戸王子（聖徳太子）や中大兄皇子が即位できなかったのは、女帝と比較して適齢期より若年…日本古代では、王族内部での女性尊属の地位が高く、皇祖母・大后から女帝さらには太上天皇への展開を概観することができる。（仁藤2006：110、下線引用者）

舞台芸能

オペラ・大島尚志台本・演出『聖徳太子』
　「新たな聖徳太子像を求めて　オペラ「聖徳太子は、厩戸皇子を神格化することなく、苦悩と挫折をくり返しながらも、理想を持ち続けた等身大の人間として見つめ直すことで、その魅力とは何であったかを探るものです」（DVD　BOOK、たちばな出版、2002年11月14日新宿文化センター大ホール収録版）
～単なる回顧趣味ではなく、現代的メッセージ性

人物造型：
蘇我馬子　「蘇我朝廷も夢ではない」野心家、好戦的
聖徳太子
「刀自古は教えてくれた　和を生み出す　慈悲の尊さを　刀自古は　わが心のまほろば　今こそ刀自古の魂とともに　夢に向かって　歩み出そう」
　→「宗教劇」を用いて聖徳を称える

２．成人の太子像と少年の太子像

佐伯（2015）仏教世界における「聖なる稚児」像～稚児物語、「エックスジェンダー」
「聖なる少年」像の東西　古代ギリシアからドイツ文学、映画へ

仏教的文脈：

津田徹英（2004：34）「親鸞晩年の聖徳太子観と東国真宗門徒の太子造像 」→「太子が救世観音を本地と する垂迹の表象」「太子四十八歳の逸話に拠る象形でありながら、垂髪 姿で盤領の袍と表袴を着け沓を履くという童子の姿をもっ てあらわされたことについては、かの姿が中世において神 仏の垂迹の表象たり得た（中略）胸前 に捧げる「柄香炉」をアトリビュートとして（後略）

「アハレミ」、「メクミ」により念仏者を阿弥陀如来の誓願である「正定聚」に帰入せしむるとしたことこそ、親鸞の太子観 （津田2004:39）→ 東国在住の中世真宗門徒による盛んな太子造像　東国において親鸞以前に 遡る在地の太子信仰の遺例が確認し得ない（津田2004:40、42）

福地佳代子（2009）「子供を聖俗の越境者と見る中世の童子信仰」

東野（2017：22）「仏教史上の重要人物の一人として、少年の姿に表現」

山岸涼子（1980～84連載）『日出処の天子』
（『LaLa』白泉社）

史実を“BL”的にアレンジ
「男色」的要素を加味した
“二次創作”
「今でこそBLもジャンルとして認知されているけれど、当時は
男同士の関係を描くなんてとんでもないという時代ですから…
一時はボツになる寸前までいって」（日下部編2016：87）

女性嫌悪（ミソジニー）　「私は女が大嫌いなのだ！」
太子「女とはよいものか？」
毛人「はっ？　さ　さあ」
太子「そなたは女は好きか」
毛人「そのようにおっしゃられても」

太子はエックスジェンダー！？

女性と聖徳太子

池田理代子『聖徳太子』（1992－94年）
“スーパー少年”像
×男どうしの恋愛描写
女性との関係（母、妻との愛情）
史実を尊重

- 光明皇后～「太子への深い信仰」（東野2017：200）
- 石山寺に伝来した如意輪陀羅尼経の奥書～橘美千代（光明皇后の母）が自邸に仏堂、経、「法華経を広めた太子に女性の信仰が集まった」（東野2017：202～203）

- 「光明皇后は、自身と藤原氏が危機に陥るたびに、法隆寺との結びつきを強化した」（大山1999：183）

「太子」神格化の背景

- 「聖なる少年」のイメージ～両性具有　超人間性
  東西文化に共通の「少年」イメージ

- 志なかばでたおれた人物への共感
  菅原道真、源義経、平敦盛……
  「怨霊」？梅原猛説？
  参）石井公成「聖徳太子研究の最前線」
  （ブログ聖徳太子研究の最前線 (goo.ne.jp)）

- 宗教と旅～太子信仰の全国展開、職人集団
  参）神崎（2020）大国主神、倭姫命…

海外研究者の視点例：コゼブニコフ V （2009）シリーズ ロシア・シンポジウム 2007 International Symposium in Russia 2007 『日本文化の解釈 : ロシアと日本からの視点』 国立ロシア人文大学, モスクワ大学, 2007年10月31 日-11月2日会議概要

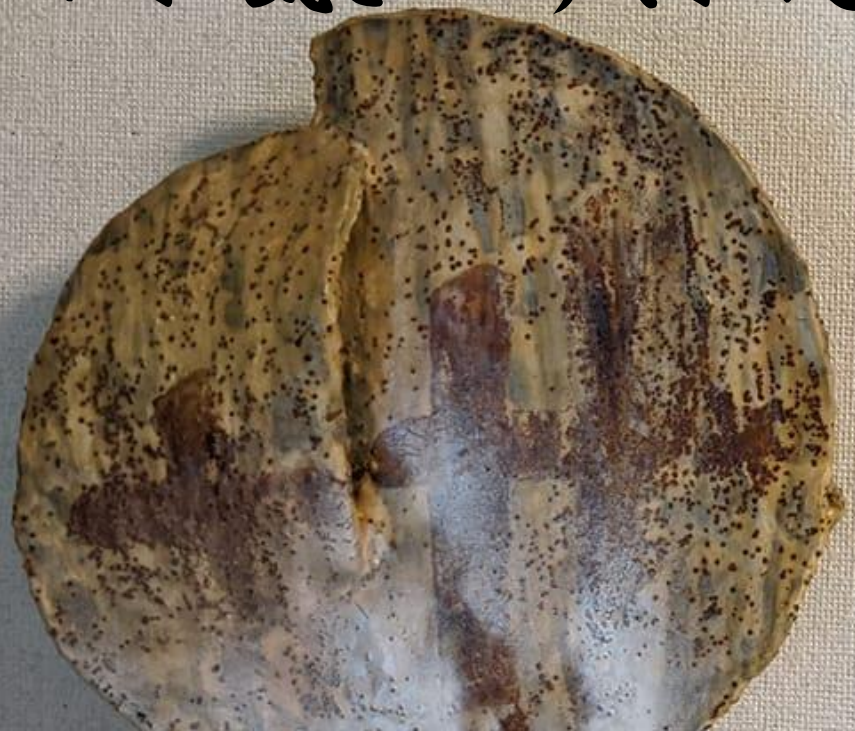
1868年 以 降、 日本 で は聖徳 太 子 につ い て、三 百 冊 以 上 の本 、一 千以 上 の論 文 が執 筆 され た 。
（前略）ロ シア で は聖 徳 太 子 に 対 す る科 学的 関心 は あ ま り高 くな い。 特別 な本 は一冊 もな く、幾 つ かの論 文 に よ って だ け、彼 の功 績 が分析 され てい る。（中略）太 子 の外 に、 日本 の政治 家 の 中に 「聖 者 」 は一 人 もい なか った。 （中略）聖 徳 太子 は皇 太子 だ っ たが即位 し た わ けで はな い。歴 代 の 天皇 で も こ こまで 「神 扱 い」 され た人 物 は他 に例 が な く、 そ の 理 由が よ く分 か らな い。偉 大 な人物 は悲 劇 的 な最期 を遂 げ る と怨 霊 に なる と 日本 人 は信 じて きた。 しか し、神 と して 手厚 く 祀 る こ とに よっ て怨 霊 は守 り神 に な る。 怨 霊 を祀 るの は神 社 で あっ た が 、梅 原 氏 は、 聖徳 太子 の 寺 、法 隆寺 を、 「太子 の怨 霊 を鎮 魂す るた めの寺 」 と解 釈 し た ので あ る。

「聖徳太子」の現代社会へのメッセージ
～「虚実皮膜」の太子像
“永遠の聖徳太子”

・事実か虚構か、の二元論をこえて
・理想を追求する人物像、優れた政治家、国際派
・純粋性→政治的腐敗への警告にも
・「二次創作」意欲をかきたてる
→文化、社会のなかに再生産、歴史の記憶
ー万円札のデザインは変わるが…福沢諭吉→渋澤栄ー

主要参考文献（著者50音順）

稲垣足穂（1968＝1986）『少年愛の美学』河出書房新社
上田正昭・千田稔編著（2008）『聖徳太子の歴史を読む 』文英堂
NHK〔聖徳太子〕プロジェクト（2001）『聖徳太子信仰への旅』NHK出版
大山誠一（1999）『聖徳太子の誕生」『弘前大学國史研究』吉川弘文館
神崎宣武（2020）『旅する神々』角川選書
北川央（2020）『近世の巡礼と大坂の庶民信仰』岩田書院
日下部洋行編（2016）『山岸涼子　『日出処の天子』古代飛鳥への旅』（おとなの「旅」の道案内　太陽の地図帳32）平凡社
佐伯順子（2015）『男の絆の比較文化史　桜と少年』岩波書店
田村和彦（2002）『魔法の山に登る　トーマス・マンと身体』関西学院大学出版会
津田徹英（2004）「親鸞晩年の聖徳太子観と東国真宗門徒の太子造像」『日本仏教綜合研究』2004年2巻、日本仏教綜合研究学会
（2008）「中世における聖なるかたちとしての童子形聖徳太子像とその機能」『日本における宗教テクストの諸位相と統辞法 ：「テクスト布置の解釈学的研究と教育」第4回国際研究集会報告書』名古屋大学文学研究科
東野治之（2017）『聖徳太子　ほんとうの姿を求めて』岩波書店
トーマス・キューネ、星乃治彦訳（1997）『男の歴史　市民社会と＜男らしさ＞の神話』柏書房
仁藤敦史（2016）「聖徳太子像の変遷」日下部行洋編（2016）所収
（2016）『女帝の世紀　皇位継承と政争』角川書店
福地佳代子（2009）「静岡市立芹沢銈介美術館所蔵「稚児大師」――聖性を顕現する童子形」『東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　Annual Report』 Vol.1
和歌森太郎（1999）「太子講」蒲池勢至編『太子信仰』雄山閣出版

ご清聴ありがとうございました！

コロナにお気をつけてお健やかにお過ごしくださいませ